

## 中間前金払制度の導入について

本市におきましては、地域建設業を取り巻く環境が厳しい状況にある中、公共工事の適正な履行確保と建設事業者の資金調達の円滑化を図ることを目的として、平成28年4月1日から「中間前金払制度」を導入します。

### 1 中間前金払制度の概要

中間前金払制度は、土木建築に関する工事において当初の前払金（請負代金額の40%以内）を支払った後、施工の中間時期に一定の要件を満たしている場合は、請負代金額の20%以内を追加して支払うことができる制度です。

部分払に比べて工事出来高検査などに伴う事務手続きが軽減されます。

### 2 中間前金払の対象となる工事

当初契約時の請負代金額が1,000万円以上（消費税額を含む）の土木建築に関する工事で、入札公告又は指名通知において、その旨を記載します。

### 3 中間前払金の使途

前払金と同様に中間前払金に関する保証契約に定める範囲内で当該工事の材料費、労務費、機械器具の賃借料、機械購入費（当該工事において償却される割合に相当する額に限る）、動力費、支払運賃、修繕費、仮設費、労働者災害補償保険料及び保証料に相当する額として必要な経費に限られます。

### 4 中間前払金の額

《通常の契約分》

当初契約時の請負代金額の20%以内の額。ただし、当初の前払金の額との合計額が当初契約時の請負代金額の60%を超えないこととし、算出した中間前払金額の1万円未満の端数は切捨てとします。

《債務負担行為に係る契約分》

当初契約時の当該年度の出来高予定額の20%以内の額。ただし、当該年度の当初の前払金の額との合計額が当初契約時の当該年度の出来高予定額の60%を超

えないこととし、算出した中間前払金額の1万円未満の端数は切捨てとします。

## 5 中間前払金の認定要件

当初の前払金を支払った後、中間前払金を請求する場合は、次の要件を全て満たすことが必要となります。

《通常の契約分》

- (1) 既に当初の前払金（請負代金額の40%以内）の支払いを受けていること。
- (2) 当該契約に係る工期の2分の1を経過していること。
- (3) 工程表により工期の2分の1を経過するまでに実施すべきものとされている当該工事に係る作業が行われていること。
- (4) 既に行われた当該工事に係る作業に要する経費（出来高）が請負代金額の2分の1以上の額に相当するものであること。

《債務負担行為に係る契約分》

- (1) 既に当該年度に係る当初の前払金（当該年度の出来高予定額の40%以内）の支払いを受けていること。
- (2) 当該年度の工事実施期間の2分の1を経過していること。
- (3) 工程表により当該年度の工事実施期間の2分の1を経過するまでに実施すべきものとされている当該工事に係る作業が行われていること。
- (4) 既に行われた当該工事に係る作業に要する経費（出来高）が当該年度の出来高予定額の2分の1以上の額に相当するものであること。

## 6 支払いの条件

公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）の規定に基づく保証事業会社の中間前払金に関する保証証書を添付した上で請求を行うことが条件となります。

## 7 中間前払金と部分払の関係

部分払をした後にあつては、中間前払金をすることができません。

また、中間前払金をした後にあつては、部分払をすることができません。

ただし、中間前払をした場合においても、債務負担行為に係る工事における各年度の出来高予定額（最終年度に係るものを除く。）に係る当該年度末の出来高に対する部分払及び繰越に係る工事における年度末の部分払については、当該年度の出来高に対して部分払をすることができるものとします。

## 8 中間前金払の手続きの流れ

### (1) 認定要件確認の請求

- ・受注者は、中間前金払の認定要件を全て満たすことを確認の上、発注者（工事担当課）に下記の書類を提出してください。

- ①「中間前金払認定請求書兼認定調書（様式1）」・・・・・・・・・・2部
- ②「工事履行状況報告書（中間前金払認定申請用）（様式2）」・・1部

### (2) 認定要件の確認

- ・発注者（工事担当課）は、受注者から「中間前金払認定請求書兼認定調書（様式1）」の提出があったときは、速やかに提出書類に基づき、当該工事が中間前金払の認定要件をみたしているかを調査します。なお、本調査は、当該工事の監督職員が行うこととし、認定の要件を「工事履行状況報告書（中間前金払認定申請用）（様式2）」により確認できるものとします。
- ・発注者（工事担当課）は、調査の結果が妥当と認めるときは、「中間前金払認定請求書兼認定調書（様式1）」に記名・押印したものを認定調書として作成し、その1部を受注者に交付します。※他の1部は発注者で保管。

### (3) 保証事業会社へ保証の申し込み

- ・「中間前金払認定請求書兼認定調書（様式1）」の交付を受けた受注者は、保証事業会社に中間前払金に関する保証の申し込みを行います。  
具体的な申し込み方法等は保証事業会社でご確認ください。
- ・保証事業会社の審査後、受注者に対して中間前払金に関する保証証書及び保証約款が発行されます。

### (4) 中間前払金の請求

- ・中間前払金の請求にあたっては、「前払金請求書」に保証証書及び保証約款を添付し、発注者（工事担当課）へ提出してください。
- ・提出書類の受理後、発注者（工事担当課又は予算担当課）は、支出に係る手続きを行い、受注者の指定する金融機関に中間前払金を振込みます。

## 9 その他

- (1) 平成28年4月1日以降に公告・指名する対象工事から適用します。
- (2) 中間前金払対象工事で、中間前金払を辞退する場合は、「前金払辞退届（様式3）」を提出してください。

## 中間前金払認定請求書 兼 認定調書

年 月 日

住所  
受注者  
氏名

印

下記の請負工事について、工事請負契約書第 34 条第 4 項の規定に基づく中間前金払の請求をしたいので、要件を具備していることを認定するよう請求します。

記

契 約 番 号	
工 事 場 所	四日市市 地内
工 事 名	
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日 まで
請 負 代 金 額	円

上記の工事についてその進捗を調査したところ、工事請負契約書第 34 条第 4 項の規定に基づく中間前金払をできる要件を具備していることを認定する。

年 月 日

課長

印

(注)

1. 当初の前金払の支払いを受けていることのほか、次の認定の要件を全て満たすこと。
  - (1) 工期の 2 分の 1 を経過していること。
  - (2) 工期の 2 分の 1 を経過するまでに実施すべき作業が行われていること。
  - (3) 出来高が請負代金の 2 分の 1 以上であること。
2. 本書は、2 部提出すること。また、「工事履行状況報告書」を 1 部添付すること。
3. 提出時点で変更契約が締結されている場合は、変更後の工期、請負代金額を記載する。
4. 調査の結果、認定する場合は 1 部を受注者に交付し、他を発注者が保管する（下欄に記名・押印）。
5. 中間前金払をした後にあっては、部分払をすることができない（債務負担・繰越に係るものを除く）。

# 工事履行状況報告書 (中間前金払認定申請用)

平成 年 月 日

監督職員 \_\_\_\_\_ 宛

現場代理人 \_\_\_\_\_ 印

工事番号 \_\_\_\_\_  
 工事名 \_\_\_\_\_

工期 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

契約金額 \_\_\_\_\_ 円

標記工事について、年 月 日現在の工事履行状況報告を提出します。

記

## 1. 工程調書

工種	設計数量	工種別出来高比率 A	工種別設計換算率 B	設計総体に対する比率 A×B	摘要
合計					

- (注) 1. 工種は、主要工種のみとする。  
 2. 設計数量の上段に出来高数量を括弧で記載すること。  
 3. 工種別設計換算率は、請負対象工事費のうち、直接工事費に共通仮設費を加えたものを1とした率を記載すること。  
 4. 総合工程表には、計画(点線)実績(実線)を区分して記載すること。

## 2. 工程図表

工種	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計	計画												
	実績												

## 3. 総合工程表

出来高%/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
100												
90												
80												
70												
60												
50												
40												
30												
20												
10												
0												

(備考) 工程調書等は必要に応じて、適宜項目を加除して使用するものとする。

様式3

# 前金払辞退届

平成 年 月 日

四日市市長

住所  
商号（名称）  
代表者氏名

印

下記の案件について（前金払・中間前金払）の請求を辞退します。

記

1 契約番号

2 工事（業務）名

3 工事（業務）場所 四日市市 地内

4 前払金額

中間前払金額